

No	事業名	対象者	令和4年度 満足度	令和3年度 満足度	増減	要因分析	課題及び今後の改善策
施策1 学校教育の充実							
1	学力向上事業	各小学校 各中学校	79.2 %	77.8 %	1.4 % UP	指導、助言、調整に関する設問に関しては評価されているが、小学校の学力向上推進計画に関する満足度が低かった。計画の周知と実践方法については検討を要する。 自由記載のコメントが少なく、踏み込んだ内容ではないことから、学校現場としての事業内容への理解が十分とは言えず、良くも悪くも効果を実感できていないのではないかと懸念がある。 他の事業と比べても特に効果が見えづらい分野であり、この満足度調査がなじむのか疑義がある。	【課題】 ・学力向上推進委員会で検討されている学力向上推進計画の実行計画が研究主任を通じて現場に浸透しきれていない。 ・学力向上については、学力向上支援員や総合学力調査との関連性もあることから、小学校学力向上事業及び中学校学力向上事業に集約しながら満足度を検証した方が効果的な検証に繋がることが考えられる。 【改善策】 ・事業の目的をより効果的にするためにも、小学校学力向上事業及び中学校学力向上事業それぞれの事業統合を検討し、より効果的な事業となるよう改善を図る。
2	小学校学力向上事業	各小学校 各中学校	64.4 %	78.9 %	14.5 % DOWN	学力向上支援員の成果に関する評価は高い一方で、勤務時間に関する満足度が低い。特に勤務時間の延長を希望するコメントが複数あり、今後、検討を要する。 総合学力調査に関する設問は、小学校及び中学校ともに満足度が低い。目標基準準拠検査からの切替えを行った初年度であり、学校では戸惑いもあったようである。実施内容や時期については学校からの意見を聞いた上でより効果的なものにしていきたい。	【課題】 ・学力向上支援員の現行の勤務時間数と学校側の要望する時間数のズレの解消 ・総合学力調査の利用上の効果が学校側でまだ実感できるものになっていない(実施時期に改善の必要あり)。 【改善策】 ・予算上の制限もある中で運用となるため、時間数の検討をしつつ、学校側の支援員の運用がより効果的になるよう研修等の充実を図っていく。 ・総合学力調査については、学校側での活用時期を見据えての検査実施となるよう学校側の意見を捉えるようヒアリングを行い、次回の検査実施に反映していく。
3	中学校学力向上事業	各小学校 各中学校	84.4 %	64.4 %	20.0 % UP	小学校に比べ、学力向上支援員に関する評価が高い。中学校では学力向上支援員をうまく活用できているのではないかと考えられる。 総合学力調査に関する設問は、小、中ともに満足度が低い。目標基準準拠検査からの切替えを行った初年度であり、学校では戸惑いもあったようである。実施内容や時期については学校からの意見を聞いた上でより効果的なものにしていきたい。	【課題】 ・学力向上支援員の現行の勤務時間数と学校側の要望する時間数のズレの解消 ・総合学力調査の利用上の効果が学校側でまだ実感できるものになっていない(実施時期に改善の必要あり)。 【改善策】 ・予算上の制限もある中で運用となるため、時間数の検討をしつつ、学校側の支援員の運用がより効果的になるよう研修等の充実を図っていく。 ・総合学力調査については、学校側での活用時期を見据えての検査実施となるよう学校側の意見を捉えるようヒアリングを行い、次回の検査実施に反映していく。
4	幼稚園事業	町立幼稚園在園児 及びその保護者	87.8 %	78.5 %	9.3 % UP	全体的に満足度は高かった。各園で感染症対策をしつつ昨年度行えなかった行事を開催できたことが大きな要因だと考えられる。 一方で、昨年度同様に園からの情報提供についての項目で不満の声が見られた。お便りの見づらさや先生方同士での情報伝達が改善できていないと考えられる。	【課題】 ・お便りの情報量が多く感じられてしまい、必要な情報を忙しい時間の中で得たいという保護者の需要とのズレがある。 ・先生同士の間での情報伝達がうまく行かない場面があり、保護者への必要な情報が行き渡らなかったという場面がある。 【改善策】 ・各園長と相談の上、普段の子供達の様子分かるような玄関先での写真の掲示を行う。 ・各園長及び先生方と相談の上、お便りの内容を少しでも見やすく簡略化できるよう、工夫する。 ・先生方同士での情報共有や意思伝達の改善については、他園の事例を園長会等で共有しつつ、園内研修等で活かしながら職員間の連携の質を向上させていく。
5	家庭教育支援事業	家庭教育支援講座 講演会受講者	0.0 %	95.8 %	%	新型コロナウイルス感染症対策のため講演会が実施できず、令和4年度は調査が行うことができなかった。	【課題】 ・満足度の対象者が講演会の参加者に限定していることから、令和4年度のように開催ができない場合に調査が実施できない。 【対策】 ・対象者を限定し過ぎてしまっているため、事業全体の利用者を掌握できるよう調査の対象者の見直しを実施する。
施策2 多様な人材の育成							
6	外国語コミュニケーション能力向上事業	各小・中学校	95.1 %	74.1 %	21.0 % UP	全体的に非常に満足度が高い結果となった。ALTの配置が外国語学習に高い効果を発揮していると評価できる。自由記載のコメントでもALTの姿勢に対する好意的な意見が複数あり、今後も取組を継続していくことが望ましいと考えられる。	【課題】 ・ALTの契約期間は最長で5年間となっていることから、今後新たなALTに交替となった場合の前任との引継ぎ（指導方法等）及び異国の仕事に対する本人の支援を行っていく必要がある（外国語指導における質の維持）。 【改善策】 ・ALTコーディネーターを中心にALTが仕事に安心して取り組むことができるよう環境面から支援していく。
7	小中学校情操教育推進事業	芸術鑑賞教室参加者	95.8 %	90.7 %	5.1 % UP	「とつともまぞく」の回答が全体の9割近くを占めており、児童の満足度は非常に高かったものと評価できる。回答の理由を自由記載する設問では「おもしろかった」という感想が多数を占めており、児童が演者の動き、表情、声、音響、脚本などについてそれぞれの着眼点での感想を記載していた。 これまでは音楽系の演目が続いており、児童にとっても演劇は新鮮だったのではないかと、子どもたちにとつとも馴染みの「注文の多い料理店」は内容的にも分かりやすいものであった。小規模ではあるが、専用の音響設備等を使用する本格的な演劇で児童にとつとも良い体験になったと思われる。	【課題】 ・芸術鑑賞については、小学校において興味・関心が強い傾向にある反面、中学校ではスケジュール調整が難しいことに加え、生徒の興味・関心が相対的に弱い傾向にある。 ・予算上の制約がある中で、一定の質を維持していくためには小学校及び中学校の全校実施には限界がある。 【改善策】 ・情操教育事業の効果を得られるところに十分な予算が活用できるよう対象者の考え方を含めて本事業の在り方を再度見直ししていく。
施策3 生涯学習の充実							
8	社会教育委員設置事業	社会教育委員	84.0 %	78.0 %	6.0 % UP	前年度からの満足度の上昇については、会議の中で社会教育委員が事業の実態を把握できるよう資料による情報提供のみならず、事業自体について委員の理解を深めていただくため、事前に補足の説明を行うなどの工夫を実施したことが評価の向上に繋がったものと考えられる。	【課題】 ・社会教育に関連する事業について、社会教育委員が全体を把握できていないため、正確な情報や実態をもとに評価しきれていない。 【改善策】 ・会議時の資料については、情報が正確に行き届くよう「見易さ」や「わかり易さ」に重点を置きながら資料提供ができるよう工夫する。 ・会議前の段階では、各社会教育委員への補足情報の提供のように会議に望み易くできるよう配慮をしていく。
9	青少年育成事業	講座参加者	98.2 %	91.0 %	7.2 % UP	前年度からの満足度の上昇については、新型コロナウイルス感染症対策により社会全体が思う様に活動できない中、体験活動時に参加者をサポートする人手を増員したことなど、工夫して事業を実施したことが、評価向上に繋がったものと考えられる。ただし、小学生低中学年向けの美里っ子体験塾、小学生高学年向けのインリーダー研修会、中学生以上対象のジュニア・リーダー（JL）初級研修会、JL活動という事業内容全体に対して、令和4年度に実施できたものは小学1～4年生を対象とする事業だけであり、その参加者からのみのアンケート調査であった点に留意する必要がある。実施できなかった事業の関係者からもアンケートを回収すると、結果については大きく変わる可能性がある。	【課題】 ・コロナ禍から活動が制限されているものがある。 ・既存の活動において同様の活動を毎年実施していることから、参加者が飽きてしまう可能性がある。 【改善策】 ・コロナ禍から活動が制限されていた活動については再開する。 ・満足度調査の各意見にも注視しながら、新しい企画の立案や開催場所を町内でも実施するなど、需要の動向により弾力的に事業が展開できるようにする。
10	文化財保護事業	文化財保護委員	50.0 %	52.9 %	2.9 % DOWN	前年度からの満足度の下降については、前年度同様に保護委員会の開催が1回に留まったほか、各種情報の提供や説明が不足したことによるものと考えられる。事業内容の適切な評価の為に、適切な情報提供が必要である。	【課題】 ・文化財保護委員会の開催が計画的に実施できていない。 ・文化財に関連する事業について、文化財保護委員会委員への情報が不足していることから、正確な情報や実態をもとに評価しきれていない。 【改善策】 ・年間の中で議論すべき事項及びその時期を明確にし、文化財保護委員会が効果的なものとなるよう計画する。 ・会議時の資料については、情報が正確に行き届くよう「見易さ」や「わかり易さ」に重点を置きながら資料提供ができるよう工夫する。 ・会議前の段階では、各文化財保護委員会委員への補足情報の提供のように会議に望み易くできるよう配慮をしていく。

11	伝統芸能等保存継承推進事業	北浦小学校の 神楽教室参加者及び 神楽クラブ参加者	100.0 %	81.5 %	18.5 %	UP	前年度からの満足度の上昇については、コロナ禍に置いても、学校における活動を工夫して継続した点が評価されたと思われる。数値からも学校における児童に対する取り組みは満足してもらっているが、コロナ禍において地域行事等の参加は無く、あくまで学校内での児童の活動だけに留まっていたため、地域住民の方々から見た活動という観点で不足している。継承成果として検証していくのであれば、これまでより広い観点で見えていく必要がある。	【課題】 ・地域における働きかけが不足している。 【改善策】 ・地域の方々が関心を抱いていただけるような講座(健康と関連付ける等)の検討を行う。 ・地域行事が再開されることから、行事内における地域住民の満足度についても求めていく。 ・地域有志による保存会加入による活動が望ましいことから、地域住民の方々に興味や関心を抱いていただけるよう情報の発信にも力を入れていく。
12	文化財活用事業	講座参加者	97.4 %	72.9 %	24.5 %	UP	前年度からの満足度の上昇については、出前講座における特に自治会等外部団体からの依頼について、企画段階から依頼者と協力し、より依頼者側のニーズに合わせた講座内容を提供できたことが評価に繋がったと思われる。低評価の一部には、主催となる団体側で解決にあたる内容が含まれていたが、今後の提案と捉え、事業内容の設定に生かしていければと考える。	【課題】 ・参加者層や団体の要望が広いため、出前講座においてはこれまでに無い要望が出てくる可能性がある。 【改善策】 ・これまでの事例を参考にしつつも、相手が求める要望を正確に捉えられるよう企画立案の段階からの聞き取りや確認を丁寧に実施していく。
13	遺跡等維持管理事業	行政区長 管理団体 講座参加者	81.8 %	63.6 %	18.2 %	UP	前年度からの満足度の上昇については、今回は地域の関係者に加え、資料館講座で史跡を訪問した参加者にもアンケート調査を実施している。地域の方々からは、例年除草回数の増を求められているが、予算の関係もあり実現していない。その分、実施時期の相談、雨天時の見回りや声がけ、落ち葉への協力要請など、現地に足繁く通う努力をした結果、肌感覚としては苦情件数が減少しているように思う。また通報のあった蜂の巣に対しても迅速に対応できており、このような点が評価の向上に繋がったと考えられる。	【課題】 ・除草回数の増加を求める声が出ている。 【改善策】 ・予算による制限もある中なので、訪問による雑草の処理の頻度を多くすることに加え、地域の協力要請にも力を入れ、代替としての対応ができるよう試みる。
14	郷土資料館運営事業	講座参加者	96.9 %	79.6 %	17.3 %	UP	前年度からの満足度の上昇については、コロナ禍にありながらも工夫して実施するとともに、参加者層に合わせた説明や、実生活に即した説明に努めたことが、評価向上に繋がったと考える。特に、大人向けの世界農業遺産講座は、ニッチな需要があったようで、参加者から継続してほしいとの声が上がっていた。	【課題】 ・地域に対する歴史や足跡を学ぶことへの興味・関心の広がり十分ではない。 【改善策】 ・身近な話題を切り口にするこで、実生活との繋がりが想像しやすくなることから、防災等のような話題を絡めて説明していくよう取り組んでいく。
15	図書館サービス事業	来館者一般 小牛田図書館 南郷図書館	92.7 %	93.0 %	0.3 %	DOWN	「満足」や「ある程度満足」がほとんどであり、前年度よりわずかに減少している。図書館全体の印象は良く、職員への対応も良いと評価されている。図書館まつりなど参加体験型イベントへの参加者も増加している。以前は図書館まつりや子どもの工作教室などは開催は1日だったがコロナ禍において、密を避けるため2週間の開催とした。これにより期間中にいつでも参加できるイベントの案内、イベントを分散して行えることに繋がった結果、参加者が増えたと考えられる。近代文学館、南郷図書館間の情報提供不足、町民ギャラリーで展示した図書館まつりの展示方法が混んでいて分かりにくかったという意見もあったため展示の工夫が必要である。	【課題】 ・小牛田図書館と南郷図書館の活動における広報が各々になってしまっていることから、地域によって情報が行き届いていないことがある。 ・図書館まつりの展示がわかりづらい。 【改善策】 ・ホームページやフェイスブックなどのSNSの活用とともに、2館合同の広報チラシを作成することで、情報が行き届く環境整備に努める。 ・館内の企画展示内容は来館者の目線を意識しながら配置等の見直しをかけ、利用者に見やすい展示方法を行う。
16	資料収集・保存事業	来館者一般 小牛田図書館 南郷図書館	82.8 %	93.0 %	10.2 %	DOWN	「満足」や「どちらかと言えば満足」がほとんどである。一方で新刊購入、子ども本や視聴覚資料の(CD・DVD)充実を希望する意見がある。資料費が下がり、本の価格が上がっていることから購入冊数が減少している。以前は本を複本として予約にも迅速に対応できていたが、予算的に難しい状況で利用者に資料が貸し出されるまで時間がかかる等の影響が出ている。	【課題】 ・図書館資料の鮮度を維持しつつ、蔵書構成を行うために資料費の増額が必要である。 【改善策】 ・今後の更新や新規購入に関して計画的に予算要求ができるよう精査をしていく。 ・現状で自館で提供できない資料は、県内公共図書館の相互貸借を活用し、できる限り利用者への資料提供に努める。
17	子ども読書推進事業	来館者保護者・子ども 小牛田図書館 南郷図書館	90.4 %	93.0 %	2.6 %	DOWN	子ども読書週間イベントやおはなし会を開催し、人数制限などがあったが、子どもが本に触れる機会となっている。子ども読書週間イベントについては資料展示の工夫や工作、ゲーム企画が好評である。子どもへの本の紹介や案内をしてほしいという意見もあった。	【課題】 ・子供に対する本の紹介や案内ができる体制の整備 【改善策】 ・子どもとその保護者へ本を手渡すために、本の紹介コーナーの工夫を行うこと、職員からも本の紹介ができるよう、資質向上に繋がる研修の実施を検討していく。
18	町民ギャラリー事業	来館者一般	87.5 %	80.0 %	7.5 %	UP	新型コロナウイルス感染拡大予防の対策を取りつつ、前年度よりも企画展等を行ったため満足度が上がったと考えられる。町内、大崎エリアの作家展ということもあり、来館者が多く好評であった。また、本を借りに来館し、展覧会を知り親賞していくという意見もあり図書館とギャラリーの相乗効果がみられていた。	【課題】 ・町民ギャラリーの利用数の増加 【改善策】 ・近代文学館所蔵展やこれまでの自主企画展については好評だったため、継続的に開催ができるよう努めるとともに、を開催し、ギャラリーの貸出や共催企画展につながるよう貸出方法については利用希望者にわかり易い案内となるよう案内書の配置場所や内容について見直しを実施する。
19	学校体育施設開放事業	学校開放利用団体	100.0 %	90.5 %	9.5 %	UP	前年度より上昇し、高評価であった。新型コロナウイルス感染症対策により社会全体が思う様に活動できない中、利用団体に寄り添った対応に務めたことが、評価向上に繋がったものと考えられる。令和4年度は、学校敷地内での喫煙および利用時の鍵の返却時間についての注意喚起の書面通知を全利用団体に行っているが、それでも評価が高かったことは、利用者においても納得できるルールとなっていることの裏付けと考える。	【課題】 ・利用者の利便性向上 (現在は紙媒体による利用回ごとに南郷庁舎に直接申請している状況) 【改善策】 ・利用回ごとではなく、まとめて申請ができる、申請の電子化など利用者の利便性に繋がる方法を検討する。 ※満足度は100%ではあるが、事業実施の中では上記に掲げる課題も届いているため、今後の課題とした。
施策4 学びのセーフティネットの構築								
20	奨学事業	奨学資金貸与者 奨学資金償還者	83.0 %	68.4 %	14.6 %	UP	・募集期間を早期化したことにより、他団体との奨学金との申請期間のズレが少なくなり、検討しやすくなっている(ただし、予約奨学生の募集との比較にまでは至っていない。) ・貸与金額の増額を求める声、償還金額の免除(給付)を求める声と同程度の割合で見られていることから、現在の貸与額が十分とは言えないところも配慮の予知がある。 ・制度が未だ十分に周知できていないという声が一定数あったため、本来必要である時期にサービスが行き届いていないことが未だあると考えられる。	【課題】 ・予約奨学生にも配慮した募集時期の設定 ・貸与額の見直しや償還額の免除(給付)等、新しい制度の検討 ・希望者への制度や情報の周知が不十分 【改善策】 ・募集期間については、12月頃に案内ができるよう工夫する。 ・新たな奨学金制度(額の増額、償還免除等)には一定需要はあるため、制度構築の検討が必要である。 ・制度を周知する範囲を大崎市のように進学先として考えられる自治体まで拡大していく。
21	特別支援教育推進事業	各小学校 各中学校 研修会参加者	88.9 %	75.0 %	13.9 %	UP	特別支援担当者研修会については、概ね高い評価を得ている。これについて、教員の研鑽を高める機会の提供につながっていると考えられることから、今後も継続して事業を実施していく必要がある。ただし、幼稚園の教員や保育所職員をはじめ町職員も研修会には参加しているため、同じ内容の講義にならないよう、講師依頼の際に留意していく必要がある。 一方、関係機関との調整の面での意見が見られた。意見が出た要因としては、幼稚園・保育所から小学校に対して新1年生の情報を交換する場が設けられなかったことが考えられる。例年であれば、研修会の後に学校区ごとに集まっての情報交換が行われていたが、新型コロナウイルスの影響から実施ができていなかった。令和5年度からは情報交換の場を再度設定していくほか、新1年生入学に向けて適切な情報共有の方法を吟味する必要がある。	【課題】 ・幼稚園及び小学校間での意見交換の機会がなかった。 【改善策】 ・研修後の意見交換会の機会の設定を行い、新小学校1年生の情報の引継ぎや対応が円滑になるよう環境整備を行う。

22	いじめ防止、不登校対策等事業	各小学校 各中学校	75.0 %	75.0 %	0.0 %	-	<p>全体的に昨年度の満足度から伸び悩んでいる。特にスクール・ソーシャルワーカーの利用について、小学校との連携が不十分であるという意見が散見された。学区ごとにスクール・ソーシャルワーカーを配置する都合から、勤務日は中学校に常駐し、各小学校を巡回してもらうようにしているが、それによってスクール・ソーシャルワーカーが「中学校在籍の職員」という印象を受けていることが考えられる。令和5年度に向けて、配置計画を中学校だけではなく小学校にも送付している。各小学校から中学校へ相談を行いやすいように、周知を徹底する必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、スクール・ソーシャルワーカーによる家庭訪問ができなかったこと、適応指導教室の周知が不十分であったことから、これらに関する満足度は低い結果となった。令和5年度から適応指導教室の機能を拡充したところであるため、より積極的にいじめ防止・不登校対策を推進していくこととしたい。</p>	<p>【課題】 ・小学校におけるスクール・ソーシャルワーカーの活用が不十分である。 ・はなみずき教室の周知、案内が不十分である。</p> <p>【改善策】 ・小学校には年間の配置計画を事前に共有することで、各校からスクールソーシャルワーカーにアクセスしやすくする環境を整備する。 ・はなみずき教室の案内用リーフレットやホームページの内容の改定を行い、アウトリーチ型の支援を行う形に繋がるよう保護者にとってわかり易く、目に留まり易いものにする。</p>
23	南郷学校給食センター事業	なんごう幼稚園児童 なんごう幼稚園職員 南郷小学校児童 南郷中学校生徒	90.8 %	73.1 %	17.7 %	UP	<p>給食の味や満足度について、9割以上の方から満足・どちらかといえば満足との回答を得た。その理由について、「味付けが良い」「好きな食べ物が出る」「栄養バランスが良い」の順に多く、また、好きな食べ物に「カレー」「肉類」等が多く、嗜好に合った献立を提供したことが満足度上昇につながったと考えられる。</p>	<p>【課題】 ・「不満」と回答： （男性）「嫌いな食べ物が出る」・「味が良くない」 （女性）「嫌いな食べ物が出る」・「量が多い」</p> <p>【改善策】 ・必要な栄養価を維持しつつ、苦手とされる食材について調理方法等の改善を行うため、栄養士会における情報共有及び改善における検討を実施する。</p>
24	小学校給食事業	小牛田地域小学校児童	93.4 %	90.2 %	3.2 %	UP	<p>給食の味や満足度について、9割以上の方から満足・どちらかといえば満足との回答を得た。その理由について「味付けが良い」「好きな食べ物が出る」「栄養バランスが良い」の順に多く、また、好きな食べ物に「カレー」「パン」等が多く、好まれる献立を提供したことが満足度上昇につながったと考えられる。</p>	<p>【課題】 ・「不満」と回答： 5年生及び6年生の割合が56% （理由）「味が良くない」「嫌いな食べ物が出る」 →（苦手な食材）「魚」「トマト」「ピーマン」「野菜」</p> <p>【改善策】 ・必要な栄養価を維持しつつ、苦手とされる食材について調理方法等の改善を行うため、栄養士会における情報共有及び改善における検討を実施する。</p>
25	中学校給食事業	小牛田地域小学校児童	92.8 %	82.0 %	10.8 %	UP	<p>給食の味や満足度については概ね9割の方から満足・どちらかといえば満足との回答を得た。また、その理由について「栄養バランスが良い」「味付けがよい」「給食が温かい」の順に多かったため、給食そのものの栄養バランスや味に対する評価が高かったことが満足度上昇につながったと考えられる。</p>	<p>【課題】 ・「不満」と回答： （理由）「嫌いなものがある」「太りたくない」 ※「嫌いなものがある」については、嫌いな食材等の特定に繋がっていない。</p> <p>【改善策】 ・「嫌いなものがある」については、次回の調査時に食材等の特定ができるよう質問の内容に工夫を入れる。 ・必要な栄養価を維持しつつ、苦手とされる食材について調理方法等の改善を行うため、栄養士会における情報共有及び改善における検討を実施する。 ・女性の中には、食べることで「太りたくない」という意見も出ていることから、適正な栄養価で食事することで健康的な身体になるという指導に繋がるよう生徒指導との連携を図る。</p>
26	幼稚園給食事業	小牛田地域幼稚園児童 小牛田地域幼稚園職員	81.4 %	77.4 %	4.0 %	UP	<p>給食の味や満足度について、8割超の方から満足・どちらかといえば満足との回答を得た。その理由について「一緒に食べることが楽しい」「好きな献立が出る」「味付けが良い」の順に多く、好きな食べ物に「カレー」「唐揚げ」等が多く、好まれる献立を提供したことが満足度上昇につながったと考えられる。</p>	<p>【課題】 ・「不満」と回答： （理由）「嫌いなものがある」が過半数 →苦手な食材「ピーマンをはじめとする野菜」</p> <p>【改善策】 ・必要な栄養価を維持しつつ、苦手とされる食材について調理方法等の改善を行うため、栄養士会における情報共有及び改善における検討を実施する。</p>
施策5 教育を振興するための基盤整備								
27	スクールバス事業	バス担当教諭 バス利用児童の保護者	79.7 %	87.3 %	7.6 %	DOWN	<p>バス運行について柔軟に対応していること、計画的なバス運行及び運転手の安全運転が評価につながっている。今回はバス担当教諭以外にバス利用の保護者を対象とした。保護者からの意見として、1つは乗降場所の状況が挙げられ、歩道の整備や乗降場所の確保が課題となった。また、運転手に対して優しく対応してくれる。優しく声をかけてくれる、といった意見がある一方、児童を忘れて出発する、運転が荒い言葉づかいが荒い暴言を吐くなどの意見が挙げられ、その2つの結果が満足度下降の結果に繋がっている。</p>	<p>【課題】 ・登下校の安全性の観点から、バス停の位置の配慮を求める声が出ている。 ・スクールバス運転手の言動や配慮不足など、職員としての資質に不安を覚える</p> <p>【改善策】 ・運行距離やバス停の位置、交通量を確認し安心して乗降できる場所の見直しを行う。 ・年3回開催している研修以外に、目的別の研修を開催し運転手の資質の向上を図る。また、必要に応じ個別の指導を実施する。</p>
28	子どもの安全安心確保事業	幼、小、中施設管理担当者 小学校6年生及び中学校1年生保護者	68.9 %	69.4 %	0.5 %	DOWN	<p>安全対策について、施設管理担当者からの評価は満足・ある程度満足という意見が半数以上であった。各学校等の評価については、単年に対応できた施設と次年度以降対応した施設で、評価が割れた結果となった。自転車通学用ヘルメットの購入費補助金について、満足・ある程度満足という意見が大半を占めた。補助制度について、満足という意見が多くある一方、金額に対しては全額補助を希望する保護者も少数いた。中学校に進学する出費が嵩む時期に、補助が出るという点が保護者からの高評価につながった。既にヘルメットを購入してしまっていて、補助を活用できなかったという意見もあった。</p>	<p>【課題】 ・ヘルメット購入費補助金について、保護者への制度理解が不十分である。 ※領収書を求めていることから、紙の領収書が無い方が申請を諦める場合がある。</p> <p>【改善策】 ・補助金の制度については、補助要件としての領収書については決済形式が多様化していることから、それらに順応できるよう運用の見直しを図る。</p>
29	小学校学校生活支援事業	各小学校 各中学校	83.3 %	83.3 %	0.0 %	UP	<p>学校ごとの評価のばらつきが大きいのが、全体としての評価は高い。本町では他の自治体に比べても教員補助員を手厚く配置しており、教員補助員の配置に感謝しているというコメントが複数あることから、現場の満足度は高いのではないと思われる。また、予算措置の必要性に関する調査では教員補助員の配置の重要度が高いとする回答が突出して多く、学校の関心度は非常に高いものと思われる。各学校で授業からの抜け出しをする児童生徒が増えており、教育現場からの教員補助員の需要は高いが、教員補助員への依存が各教員の指導力、学級経営のあり方等に与える影響も考慮する必要がある。令和5年度は児童生徒数等を考慮の上、小学校の学校間でのバランスをとるため配置数を絞ったが、その結果を見極めて今後の配置のあり方を考えていく必要がある。</p>	<p>【課題】 ・必要な人員を配置できるよう現実的かつ持続可能な配置のあり方を検討する必要がある。</p> <p>【改善策】 ・支援を要する児童の状況については、学校教育支援専門員の定期巡回訪問や教育相談の状況を踏まえつつ、適正な配置となるよう状況把握に努める。 ・教員補助員の配置の考え方については、管理職を中心に統一的な見解となるよう浸透を図る。 ・教員の多忙化解消に関する補助金を活用するなど、財源確保に努める。</p>
30	小学校教育振興事業	各小学校 各中学校	70.8 %	72.2 %	1.4 %	DOWN	<p>学校図書司書補助員の配置に関する評価は高い一方で、消耗品や備品購入に関する満足度が低い。特に、小学校では「満足している」の回答が1校もない結果となっている。各学校ではそれぞれ様々なやりくりをしているようであるが、学校徴収金ではカバーできないものはこの事業でカバーしていくしかない。次年度の予算計上に当たっては考慮すべき結果となった。</p>	<p>【課題】 ・教育現場で必要な物品等の実態把握に努め、予算措置をしていく必要がある。</p> <p>【改善策】 ・事業予算としての妥当性を再度検証し、その結果については学校との共有を図る。</p>
31	中学校学校生活支援事業	各小学校 各中学校	87.5 %	74.1 %	13.4 %	UP	<p>学校ごとの評価のばらつきが大きいのが、全体としての評価は高い。本町では他の自治体に比べても教員補助員を手厚く配置しており、教員補助員の配置に感謝しているというコメントが複数あることから、現場の満足度は高いのではないと思われる。また、予算措置の必要性に関する調査では教員補助員の配置の重要度が高いとする回答が突出して多く、学校の関心度は非常に高いものと思われる。各学校で授業からの抜け出しをする児童生徒が増えており、教育現場からの教員補助員の需要は高いが、教員補助員への依存が各教員の指導力、学級経営のあり方等に与える影響も考慮する必要がある。</p>	<p>【課題】 ・必要な人員を配置できるよう現実的かつ持続可能な配置のあり方を検討する必要がある。</p> <p>【改善策】 ・支援を要する児童の状況については、学校教育支援専門員の定期巡回訪問や教育相談の状況を踏まえつつ、適正な配置となるよう状況把握に努める。 ・教員補助員の配置の考え方については、管理職を中心に統一的な見解となるよう浸透を図る。 ・教員の多忙化解消に関する補助金を活用するなど、財源確保に努める。</p>

32	中学校教育振興事業	各小学校 各中学校	86.1 %	66.7 %	19.4 %	UP	学校図書司書補の配置に関する評価は、小学校と同じく高い。消耗品や備品購入に関する項目については、小学校よりも満足度が高い結果となった。統合に向けて配当の在り方を検討していく必要がある。	<p>【課題】 ・教育現場で必要な物品等の実態把握に努め、予算措置をしていく必要がある。</p> <p>【改善策】 ・事業予算としての妥当性を再度検証し、その結果については学校との共有を図る。 ※中学校については、新中学校へ向けた統合の移行期間に入るので、その点についても考慮する。</p>
33	中学校部活動支援事業	部活動顧問の教職員 (県費負担教職員)	70.5 %	57.7 %	12.8 %	UP	<p>・満足度については前年度より向上した。コロナ禍による大会の縮小、中止が緩和され、補助金の利便性を感じていただけたのかと考えられる反面、同補助金の予算執行に余裕があったにも関わらず、大会参加費や交通費に不満を持たれる声もあった。</p> <p>・備品については老朽化や買い替えを求める意見が多く見られた。</p> <p>・部活動の活動時間については、前年度同様に不満を感じる意見が多かった。</p>	<p>【課題】 ・補助金の対象経費についての理解が不十分である。 ・卓球台やバスケットゴールのような備品の劣化から交換を求める声が出ている。 ・部活動の拘束時間から、本務が滞ってしまっている(学校の在在等時間が長くなっている。)</p> <p>【改善策】 ・補助金の活用についての制度理解の浸透方法を検討する。 ・統合を見据えた備品等の整備については、新中学校整備等事業との連携から計画的に実施する。 ・部活動の地域移行による教員の勤務時間削減、多忙化解消へ向けた取組を行う。</p>
34	預かり保育事業	町立幼稚園預かり保育を利用している園児の保護者	89.2 %	85.5 %	3.7 %	UP	<p>昨年度と同様に高い満足度を維持している一方で、前年度と同様に、預かり保育に関する情報提供の満足度が、他の項目と比べて低い。 普段仕事で子どもの姿が見れない分、幼稚園での生活の様子や遊んでいる様子が見たい保護者が多く、ニーズに合わせてより分かりやすい情報を発信する必要がある。</p>	<p>【課題】 ・お便りの情報量が多く感じられてしまい、必要な情報を忙しい時間の中で得たいという保護者の需要とのズレがある。</p> <p>【改善策】 ・各園長と相談の上、普段の子供達の様子が分かるような玄関先での写真の掲示を行う。 ・各園長及び先生方と相談の上、お便りの内容を少しでも見やすく簡略化できるよう、工夫する。</p>